

連載

(102)

いのちひろば

毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと

罹るか罹らないか分からないものを「罹らなかった」と実感することは難しいですが、予防に勝るものはありません。ワクチンに偏った意見、主張もありますが正しく恐れて疾病を予防しましょう。

高齢者・妊婦ワクチンについて

～公費負担を含め～

小田原医師会 成人・がん対策担当理事

高見澤クリニック 院長

高見澤 徹



たかみざわ・てつ 1974年生まれ。都立武蔵高校卒、滋賀医科大学卒。横浜市立大第二内科(循環器内科)学教室入局。H21年10月より高見澤クリニック院長。H29年度より小田原医師会成人・がん対策担当理事。

【まず予防接種とは何か】

予防接種は体に免疫をつけて病気に罹らないようにすることが目的です。また、予防接種は次世代を育てるものでもあります。

例えば、女性が風疹ワクチンを受けることは妊娠中の感染による胎児の障害を防ぎます。さらに風疹の流行そのものを減らす為に妊娠する女性だけでなく男性にも行われます。(もし打ち逃してしまった方がいたら自費でも打ちましょう。)多くの方が受けていることで、副作用から受けられないなど何らかの理由で受けていない少数の人でも守られることになりま

さらに、病気の根絶ができたといわれるのが天然痘です。ポリオもあと一歩まで来ています。子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)もカナダ、オーストラリア、イギリス、アメリカでは男女とも接種率が7割から8割となっています。接種率が高いほどHPV関連癌が近い将来撲滅できると言われています。

我が国の予防接種法による予防接種は定期接種と臨時接種、さらに新臨時接種があります。法に基づかないものは任意接種と言います。

定期接種にはA類疾病とB類疾病とがあります。A類は重い病気の予防と社会全体の集団予防に重点をおいています。つまり自分だけでなくみんなを守る為に予防接種です。受けるように努力義務があります。住民票がある自治体で無料で受けられます。主に小児の予防接種ですが、一部成人が対象となる場合があります。

B類疾病は個人の発症や重症化予防に重点が置いています。基本的に自分だけが対象なので本人の希望で行われますが一部公費負担があることがあります。主に高齢者のワクチンです。

臨時接種は蔓延予防、緊急の必要がある時に臨時で行うものです。緊急事態宣言が出され全国民に行われます。2024年10月より前、特例臨時接種と呼ばれた新型コロナウイルスワクチン接種がこれにあたります。

新臨時接種は病原性が低い新型コロナウイルス等が起きたときに行われます。

【成人に対する定期接種 (B類疾病)】

高齢者インフルエンザワクチン

インフルエンザは自然治癒することが多いですが、中には重篤な合併症、後遺症が残ったり死亡する事もあります。

高齢リスク患者といわれるのは5歳未満(とくに2歳未満)、65才以上の高齢者です。他にも免疫抑制状態、心臓、腎臓、肝臓、血液疾患、神経疾患、糖尿病などの代謝疾患、呼吸器疾患などを持つ方、介護施設、慢性期療養施設に入所されている方も重症化リスクが高いと言われています。

かつては子供に対して集団接種が行われていたインフルエンザワクチンですが、現在は子供への定期接種はなくなり、高齢者はインフルエンザの高リスク群であり、2001年に定期接種(B類疾病)として復活しました。

効果は接種後2週間から5ヶ月と言われていますので毎年の接種が必要です。また感染防御や発症阻止効果は完全ではなく、接種していても罹患してしまうことがあります。また副反応としては接種部位の局所反応、発熱などの全身反応が見られるほか、重篤なものもありますが0.00008%と極めて稀です。

しかし、高齢者においては入院を30~70%施設入所者では入院を50~60%、死亡を80%減少させると報告されています。高齢者施設で暮らす方へは流行前の積極的な接種が必要です。

小田原、箱根、真鶴、湯河原に住民票がある65歳以上の方と、60歳から64歳で心臓やじん臓、呼吸器などの内臓機能及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に重い障がいのあるかた(身体障害1級の)自己負担金は2100円となります。

高齢者新型コロナウイルス

2019年12月に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスはSARS-CoV-2、その感染症はCOVID-19と呼ばれます。

COVID-19は無症状から急速に悪化する重症例まで幅広く様々です。

現在では軽症例が多くなったとは言え2023年以降も夏と冬に流行が見られています。2025年の年間死亡者数は厚労省の発表で季節性インフルエンザの6838人に対し新型コロナウイルスでは21・497人と大きく上回っています。

コロナワクチンの副反応

接種部位の腫れ、疼痛などの局所反応が強く60~80%全身反応の発熱、頭痛、倦怠感も15~60%に見られます。

重篤な副反応として血栓症、心筋炎が報告されました。血栓症はファイザー製mRNAワクチンでは5400万接種で35例報告されました。また若い男性には極めて稀ではありましたが心膜炎心筋炎が100万接種のうちで数例報告されました。

現在ではワクチン効果は感染予防から重症化予防へとシフトしています。

若い世代は罹患しても軽症な方が多い一方で高齢者は重症化する方が多くなります。2025年に入院し

た64616人の半数以上が80歳以上であり、70歳以上だと75・1%、60歳以上だと84%になります。ICU入室、人工呼吸器の使用も高齢者に多いことから高齢者にとっては現在でも注意すべき疾患だと言えます。特に高齢者施設で暮らしている方は集団生活という点もリスクになりますのでインフルエンザワクチンと一緒に接種してください。

小田原、箱根、真鶴、湯河原に住民票がある65歳以上75歳未満の方と60歳から64歳で心臓やじん臓、呼吸器などの内臓機能及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に重い障がいのあるかた(身体障害1級の)自己負担金は6800円となります。75歳以上の方は5100円となります。

肺炎球菌ワクチン

国内の市中肺炎および医療介護関連肺炎の年間推定患者数は188万人でありそのうち肺炎球菌性肺炎は53万人でした。2017年以降の死因統計では肺炎が第5位となっています。

これまで23価のニューモバックス(PCPV23)というワクチンが高齢者には使われてきましたが、今年4月より20価のプレバナー(PCV20)に変更となりました。ワクチン接種後の免疫を得る機序が異なっているため、ワクチンに含まれる血清型において、PCVの方がPPSVよりも高い有効性が期待でき、2024年時点では成人の侵襲性肺炎球菌感染症の原因となる肺炎球菌の血清型のうち、各ワクチンに含まれる血清型の割合も概ね同等程度でした。

小田原、箱根、真鶴、湯河原に住民票がある65歳以上の方と、60歳から64歳で心臓やじん臓、呼吸器などの内臓機能及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に重い障がいのあるかた(身体障害1級の)自己負担金は5000円となります。

PCV21

昨年8月にキャップバックスという21価の肺炎球菌ワクチン(PCV21)が承認されました。これまで承認されたワクチンには含まれずこのワクチンにしか含まれない血清型が8種あることが特徴です。現時点では定期接種に採用されていませんので希望される場合は任意接種で自費となります。

带状疱疹ワクチン

带状疱疹は水疱瘡にかかった後、神経の節に潜んでいたウイルスが疲れた時など免疫力が落ちてしまった時に再活性化して発症します。皮膚に帯状に痛みを伴う水疱が集まって出ます。带状疱疹にかかった後に神経痛が長く続くことがあり带状疱疹後神経痛と言います。高齢になる程神経痛は起こりやすくなります。その他顔面マヒを合併する事や目に発生して角膜炎、髄膜炎・脳炎などがあります。日本の成人のほとんどは幼少時に水痘に感染しているため帯状疱疹を発症する可能性があります。50代から増加し70代がピークとなります。

ワクチンには弱毒生ワクチンと不活化ワクチンがあります。生ワクチンは病原性を弱めています。活性があることで免疫機能に異常がある疾患の方と免疫抑制をきたす治療を受けている方は接種できません。副反応は接種

部位の局所反応がほとんどで、重篤なものはありませんでした。予防効果は接種後3・36年で73・8%あります。

不活化ワクチンは副反応として疼痛、発熱、腫脹が26・79%みられ、筋肉痛、疲労、頭痛も39・46%見られましたがともに一過性でした。2回接種が必要になります。予防効果は4年後89・8%、10年目でも73・2%と良好でした。

対象者は65歳となる方ですが、2030年3月末までは65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる日の属する年度に接種できます。また、60歳以上65歳未満の方であって、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に障害がある方(身障1級相当も対象です)。

小田原、箱根、真鶴、湯河原に住民票がある方は生ワクチンが2700円、不活化ワクチンは7000円×2回となります。

前述の定期接種の対象者以外で50歳以上の方は任意接種となりますが助成金があります。それぞれの自治体で助成額、方法が異なります。但し小田原市に関しては今年度で助成は終了です。検討されている方は早めにお願います。

【妊婦に対する定期接種 (A類疾病)】

RSワクチン

RSウイルスは2歳までにはほぼ100%が感染し、終生再感染を繰り返すウイルスです。成人が罹ると風邪症状を呈するも自然軽快します。

しかしながら1歳未満の急性下気道感染による死亡の1/3を占めます。早産、慢性肺疾患、先天性心疾患、免疫不全を有する赤ちゃんはリスクが高く、正期産でも出生後早期から感染し、低月齢ほど重症化のリスクが高い疾患です。しかしRSウイルスに高い抗体価を持つお母さんから生まれた赤ちゃんは重症化を免れます。

今年4月からRSウイルス母子免疫ワクチンが定期接種となりました。このワクチンは生まれたばかりの赤ちゃんに予防接種をするのではなく、お母さんに接種をする事でお母さんの抗体を増やし、胎盤を通してお腹の中の赤ちゃんに移行させようという仕組みです。

すでに接種を行っているアルゼンチンでは32~37週かつ分娩14日以上前に接種していると3ヶ月齢まで78・6%、6ヶ月齢まで71・3%の予防効果が報告されています。

対象者は接種日当日に、妊娠28週~37週に至るまで(36週6日目まで)の妊婦さんになります。また何度もかかる疾患ですので妊娠毎に1回接種できます。接種費用は無料です。

ちなみにRSウイルスは成人がかかると風邪と書きましたが、高齢者(特に75歳以上)呼吸器疾患、心疾患、腎疾患、糖尿病、免疫不全などがあると重症化し入院あるいは死亡することがあります。任意接種で自費になりますが60歳以上の方(または50歳以上で重症化リスクのある方)にも接種可能です。

今回は10月中旬に「抗コロナ薬について」を掲載予定です。

小田原医師会より住民の方々へ

小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町の方対象 診療相談日

9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
		1 13:00~14:00 内科	2 13:30~14:30 内科 腎臓内科	3	4 14:20~15:20 小児科	5				1 14:20~15:20 小児科	2	3	
6	7 13:00~14:00 内科 循環器科	8 13:00~14:00 整形外科	9 13:30~14:30 耳鼻科	10 13:30~14:30 産婦人科	11	12 14:30~15:30 産婦人科	4	5 13:00~14:00 内科 循環器科	6 13:00~14:00 整形外科	7	8	9	10 13:30~14:30 内科 神経内科
13	14 13:30~14:30 内科	15	16 13:30~14:30 内科	17	18 13:15~14:15 皮膚科	19	11	12	13 13:00~14:00 内科	14	15	16	17
20	21	22	23	24 13:30~14:30 内科	25	26 13:30~14:30 内科 神経内科	18	19	20 13:30~14:30 内科	21 13:30~14:30 内科	22	23 13:15~14:15 皮膚科	24 14:30~15:30 産婦人科
27	28	29 13:30~14:30 内科	30 14:30~15:30 小児科				25	26	27 13:30~14:30 耳鼻科	28 14:30~15:30 腎臓内科	29 13:30~14:30 内科	30	31

＜ 右記の問合せ先 ＞

医師会地域医療連携室

☎0465-47-0833

月曜～土曜 (日曜、祝・休日、12/29～1/3休み)
午前9時～正午/午後1時～午後5時

小田原医師会地域医療連携室では、医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

医療機関検索は
小田原医師会のサイト
から利用できます



<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>

小田原市休日夜間急患診療所

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂

2132-16 ☎0465-47-0833 駐車場

場(第1~4号) ☎ https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/nighttime/

診療科と受付時間

①平日 (夜間) 午後7時~同10時

②日・祝日 (昼間) 午前8時半~同11時半

③日・祝日 (昼間) 午後1時~同3時半

④土・日・祝日 (夜間) 午後9時~同11時半

午後1時~同3時半

午後6時~同10時

・内科と小児科は①②④

・耳鼻咽喉科は②のみ

・眼科は当番日の②のみ